

平成 26 年度

学 校 評 価

<記入上の留意点>

- 評価Ⅰは教職員、評価Ⅱは校園長、評価Ⅲ・評価Ⅳは学校関係者評価委員の評価を記入する。
- 評価Ⅰは小数第一位まで記入する。評価Ⅱは4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。評価ⅣはABCDで記入する。
- 学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

◎ 評価Ⅰ、評価Ⅱの基準

4	十分達成できた
3	達成できた
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅲの基準

4	よく取り組んでおり、成果が大きい
3	熱心に取り組んでおり、今後が期待できる
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅳの基準

A	優れている
B	適切である
C	おおむね適切である
D	要改善

尼 崎 市 立

学 校

平成26年度 学校評価

[各校の重点取組について]

-
- ・名和の全教職員で名和の子を育成する
-
- ・児童の学力向上、教師の指導力向上を目指す
-
- ・地域・保護者との連携を益々強化する

学校教育に関する重点取組

	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる (1) 授業改善の取組を促進するとともに家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育充実の取組を促進し、自立や社会参加に向けた主体性を育成する (3) 校種間連携の取組を促進し、滑らかな成長を推進する	3	3
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・生活点検による基本的生活習慣の確立 ・全校で「毎日の算数」に取り組み既習事項の定着や文章題で思考力の育成を目指す ・サマースクール開校 ・校内研究による授業改善の取り組み ・授業パターンの実践 ・授業改善アドバイザー・スーパーティーチャーによる若手の指導力向上 ・公開授業 ・児童理解職員共通理解研修 ・交流と独自の場のバランスをとった特別支援のありかた ・個別指導計画を立て各児童に沿った指導の確立 ・異校種授業交流 ・小中合同研修 ・親睦会 	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度の学習状況調査による家庭での学習習慣の確立の数値が下がった。 ・家庭での読書の時間の確保が伸びにくい。図書室の充実を、補助教員とボランティアの支援を受けつつ図っていくことで、家庭への働き方模索し読書できる環境づくりを推進していく。 ・「毎日の算数」の取り組みの継続が行われている。活用問題も織り交ぜて、思考力を鍛えていく。 ・時間的な難しさはあるが、若手の指導力向上を目指す授業改善アドバイザー・スーパーティーチャーによる指導を頂いている。来年度も引き続き招聘する。若手自らが予定や計画をたて、ティーチャーに依頼する姿勢を育てていく。 ・幼小中の連携を今年度も大切に継続している。来年度は一步進めて、交流から連携の意識を持ち、教育課程にふれた内容を進める。 	

	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る (1) 道徳性育成の取組を促進し、良好な人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (2) 基本的生活習慣確立の取組を促進し、問題行動の未然防止を図る (3) 相談体制充実の取組を促進し、不適応行動への早期対応及び長期欠席の改善を図る (4) 進路指導充実の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する	3	3.5
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・道徳、学級経営を通じていじめを許さない学級指導を展開 ・保健室のドアの開放、児童が相談しやすい体制づくり ・校内放送や朝会による生活習慣の呼びかけ ・今月の目標の掲示 ・学校全体で、児童の心の声を聞けるよう心がけている ・時間を空けず電話連絡、家庭訪問 ・長期欠席児童への電話や訪問 ・欠席がちな児童は兄弟関係から中学校と連携し状況確認を行った ・職員共通理解研修の実施 ・訪問職員との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・登校しぶり、不登校気味の児童は依然として解決が難しく、保護者との連携も難しい。教職員がカウンセリングマインドを持って、解決のきっかけを作っていけるよう研修し、保護者と思いを分かち合いながら進めていく。 ・学校の教職員全体が連携し、手立ての必要な児童に関わっている。今後も、児童理解研修等や日々の会話の中で情報を共有し、教職員が皆で全児童に関わるという意識を持って取り組んでいく。 ・成果のあった事例を報告し合って、解決の糸口を見つけていく。 ・訪問教員と中学校と小学校が情報を共有し、連携しながら長期で見 	

3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
		3.5	3.5
(1) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (2) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る			
取組とその成果		課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> 保健室での保健指導「朝ご飯の秘密」を学年に応じて実施 定期的な給食だよりの発行 栄養バランスを考えた食育の実施 耐寒マラソンの実施 縄跳び大会の実施 水泳記録会 連合体育大会 小学生陸上競技会参加 		<ul style="list-style-type: none"> アレルギー対策のマニュアルをつくり、完全実施している 耐震化工事で狭くなった校庭ではあるが、体育大会も保護者の理解と協力を得て、例年に劣らない行事として成功させた 校内マラソンを、計画実施する中で、狭い校庭を安全に使用するべく工夫していく 	

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
		3	3
(1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び校内の安全確保を図る (2) 防災教育充実の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る			
取組とその成果		課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> 大切な体を守る保健指導「プライベートゾーン」を学年に応じて実施 集団登校指導・地区別下校指導の実施 自身が身の安全を守るための避難訓練の実施 交通安全教室を開いて、3年生の自転車の乗り方の指導を行うと共に、交通安全意識を持たせる 		<ul style="list-style-type: none"> 子ども自身で、自分の体や安全を守るという意識を持たせる取り組みを継続する 命の学習会を実施する。来年度も実施する。 交通安全教室を開いた。折々飛び出し等による事故が出ていることを、ビデオや講話等で確認し、安全について考える機会を持つ。来年度も実施する。 	

5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活気に満ちた学校園づくりに取り組む		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
		3.5	3.5
(1) 教職員の資質向上の取組を促進し、学校の組織力向上を図る (2) 地域資源活用の取組を促進し、開かれた学校園づくりを図る (3) 学校評価活用の取組を促進し、学校運営の改善と発展を図る			
取組とその成果		課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> 地域・保護者の見守り隊との毎日の交流 地域の畑でイモを栽培している 地域の盆踊りに教職員有志の参加 各行事ごとに反省を十分に行っている PTAによる行事の反省を行っている 学校評価を次年度に生かしている 各部・各学年の取り組みの成果と課題を追求 初任者指導による授業・学級づくり研修 管外研修、市内他校の研究大会への参加 		<ul style="list-style-type: none"> 若手が7割を越え、若手の指導力向上が必至である。取り組みの継続を行っている。 学校関係者評価を活用したり、評議員会の声を確認することで、行事等の方向性を選択している。 PTAとの打ち合わせで例年の成果や課題を話し合うことで、各行事ごとに適切な支援を頂いている。 	

教育目標		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実	3
取組とその成果		課題と改善策	
学年で情報交換・情報共有し、連携した学年づくり <知> ・怪我で来室の児童に、なぜかを考えさせる ・兵庫型教科担任制を行う ・授業改善 <徳> ・道徳教育の充実 <体> ・子ども達が意欲的に学ぶ課題や環境を設定する		・名和の全職員で名和の子を育成していくことを共有して進む ・若手が7割を越え、指導力の向上を目指すことが今後も継続される ・さらなる学力向上を目指す 家庭学習の習慣化を家庭との連携で 全教職員で共通理解して取り組む 兵庫型教科担任制の充実 授業改善に向けた研究授業の継続、発展 ・心の教育の大切さを自覚し継続していく ・道徳教育、人権教育の充実 「子育て講座」「子ども人権講話」の継続 公開授業の実施	

研究テーマ		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実	3
取組とその成果		課題と改善策	
・表現力の育成に向けて全校で統一してルールを作り実践している ・ペア学習、グループ学習の取り入れによる全員参加の学習 ・意欲的に学ぶために児童の「？」を大切にしている ・授業パターンの統一 ・教材教具の充実 ・少人数指導の充実 ・朝の学習、家庭学習の充実		・我が校のこれまでの研究の積み重ねを大切にする ・継続の研究の良さの上に、改良をする点は工夫や修正をかけていく ・各年代の教職員自ら使命感を持ち、自己の指導力アップを心がける。自主的に研究・研修に向かう姿勢を継続させる。 ・他の学校のよき授業よき研究に学ぶ姿勢は継続して持つ	

		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
取組とその成果		課題と改善策	

※ 評価Ⅲの基準

4:よく取り組んでおり、成果が大きい
2:取り組んでいるが成果が十分でない

3:熱心に取り組んでおり、今後が期待できる
1:取組が不十分である

学校関係者意見等	評価Ⅲ
<p>1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる</p> <p>手取り足取りでは駄目。新しい状況で何もできないことがないようにしたい。先生達でもそのように育てられていることある。(学校) 状況による。それが必要な場合もある。先生達に熱血の部分が欲しい。</p>	3
<p>2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る</p> <p><不登校>どの位あるのか。 資料を見ると、学校は実際、よくやってくれている。 家庭の問題でもある。生活に追われ、保護者が子供のことをみていないことがある。小学時代は基盤作りの時。 集団登校があるが、友だち同士の誘いが大きい。 地域でみてきたが、課題の子も成長してきている。成績のいい子だけでは駄目、全員を教育して送り出すことが大事。</p>	4
<p>3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む</p> <p>資料によると、立派なことをしている。 耐震化工事の中、狭い運動場だが、工夫して取り組んでいるのがいい。 <空調>整うのはよかった。 今の保護者の世代は、自分たちが育ったようには子どもを鍛えない。クーラー、暖房のなかで子育てしてきている。</p>	4
<p>4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団登校、集合時間の設定は学校ではなく、各班で ・出発のタイミングは自分たちで ・班長は年の長者が引き受ける ・近くの子の登校が遅い ・防災避難訓練は年3回できている ・地域も津波想定避難場所を共有しておく、学校は子ども達が居る時、地域に入る余地はない ・自転車の乗り方が危ない、自転車教室等実施してほしい、自転車が車道を通るのは怖い 	3
<p>5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む</p> <p>学校が大変よく取り組んでいるのが解った。 たくさんの資料から、しっかりと振り返って、成果や課題、改善策を考えて進んでいることが解った。 先生方は大変だが、少々厳しい指導も必要かと思う。体罰はいけませんが、先生の威厳がなくなるのは考えもの。保護者は先生の悪口を言うてはいけな。子どもが先生を信頼しなくなる。 地域でも、体に気をつけながら皆で協力し頑張っていく。学校の支援をしていく。</p>	4
<p>■教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知・徳・体の目標になっている。良い目標。 ・バランスよく育てることが大切。 ・しっかり育てて欲しい。 	3
<p>■研究テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマのもとしっかり取り組んでいる。 ・この調子で継続していくことを願う。 	3
<p>■学校について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価は甘くないところがいい。 ・実際よくやっている。 ・よくやってくれているのが資料等から分かって嬉しい。 ・このような言える場所があって嬉しい。 ・改善すべき点、悪い自己評価が本当に書いているのがよい。 	4
<p>評価項目 (A:優れている B:適切である C:おおむね適切である D:要改善)</p>	評価Ⅳ
アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	A
自己評価の結果の内容は適切か	B
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	B